

製品名: カゼインキナーゼ II β (リン酸化 Ser209) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04362**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CSNK2B
別名	CSNK2B; CK2N; G5A; Casein kinase II subunit beta; CK II beta; Phosvitin; Protein G5a
遺伝子 ID	1460.0
SwissProt ID	P67870
免疫原	抗血清は、Ser209 のリン酸化部位周辺のヒト CKII- β 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 166-215

背景

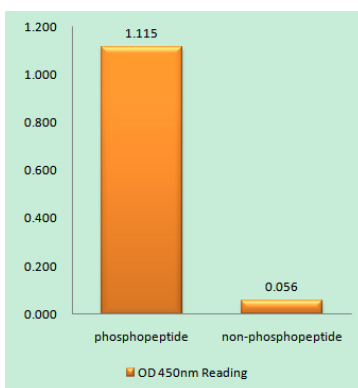
この遺伝子は、代謝経路、シグナル伝達、転写、翻訳、複製を制御する普遍的なプロテインキナーゼであるカゼインキナーゼ II の β

サブユニットをコードします。この酵素は、 α 、 α プライム、 β の3つのサブユニットから構成され、四量体ホロ酵素を形成します。 α および α プライムサブユニットは触媒機能を有し、 β サブユニットは制御機能を担います。この酵素は小胞体およびゴルジ体に局在します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2013年9月]、機能: Wntシグナル伝達に参与(類似性による)。 α サブユニットの基礎触媒活性を制御する複雑な役割を果たします。、PTM:N-グリコシル化されています。、PTM: α サブユニットによってリン酸化されています。類似性:カゼインキナーゼ2サブユニット β ファミリーに属します。、類似性:1つのUPAR/Ly6ドメインを含みます。、サブユニット:オリゴマーを形成します。、サブユニット: α サブユニット、 α' サブユニット、および2つの β サブユニットからなる四量体。TCTEX1D3と相互作用します(類似性による)。CD163と相互作用します。また、SSRP1、SUPT16H、CSNK2A1、CSNK2A2、およびCSNK2BからなるCK2-SPT16-SSRP1複合体の構成要素でもあり、この複合体は紫外線照射後に会合します。、

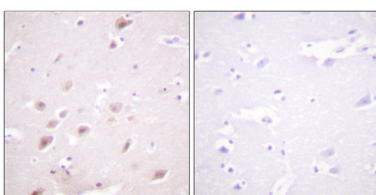
研究分野

WNT;WNT-T 細胞接着接合部;接着接合部;

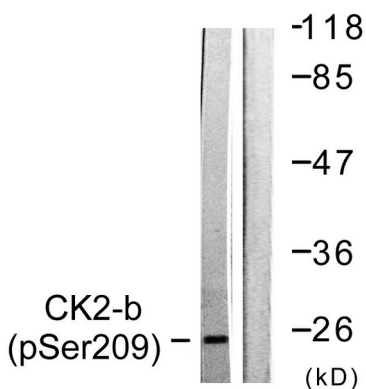
画像データ



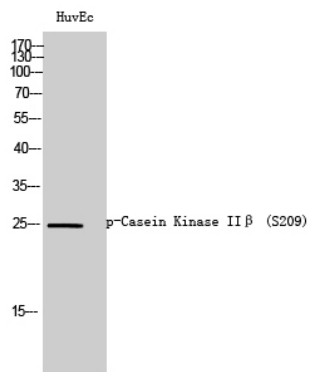
CKII-beta (リン酸化 Ser209) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



CKII-beta (リン酸化 Ser209) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



CKII-beta (リン酸化 Ser209) 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホカゼインキナーゼ II β (S209) ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析